

■開催概要

- シリーズ : 2019 鈴鹿クラブマンレースRound 3
- 併催レース : TOYOTA GAZOO Racing Netz Cup Vitz Race 2019関西シリーズ第2戦
2019 Honda Sports & Eco Program FIT 10リッターチャレンジ
- 主催 : オムニバスクラブ オブ カンサイ (OCCK)・鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : AASC・KRHC・ARC・ARCN・チーム淀
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2019-3002
- 会場 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数/145台
FFチャレンジ/14台
TOYOTA GAZOO Racing Netz Cup Vitz Race 2019 関西シリーズ第2戦/55台
フォーミュラEnjoy/24台
スーパーFJ /29台
FIT 1.5 Challenge Cup/13台
FIT Eco 10リッターチャレンジ/10台
- 開催日 : 2019年5月11日(土)・12日(日)
- 天候 : 晴れ(決勝日)
- 路面 : ドライ(決勝日)

■次回レース開催概要

- シリーズ : 2019 鈴鹿クラブマンレースRound4
- 開催日 : 2019年6月22日(土)・23(日)
- 主催 : 中日本自動車短期大学レーシングクラブ (ARCN)・鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催クラス : クラブマンスポーツ (VITA OF ASIA) (2レース)



スターティンググリッドに向かってコースインするフォーミュラEnjoy Classの車両

レーシングアドバイザーとして田中哲也氏も参加。 初夏の鈴鹿で145台がレースを楽しんだ!

5月11日(土)、12(日)の2日間に渡り行われた、「鈴鹿クラブマンレースRd3」。

55台がエントリーして、ひときわ賑やかだったのが「TOYOTA GAZOO Racing Netz Cup Vitz Race 2019 関西シリーズ第2戦」。11日にA・Bと分かれて公式予選を実施。残念ながら決勝レースに進めなかった6台を対象に、コンソレーションレースも開催した。台数が少ないながらもチーム関係者が多数の声援を送っていた姿が印象的だった。

もう一つのトピックは、1日で第3戦、第4戦が行われた「スーパーFJ」。特に第4戦の1～6番グリッドの決定は、第3戦の正式結果をもとにリバースグリッドを採用し、第3戦の1位が第4戦では6番グリッド、逆に6位は第4戦ではポールポジションからスタートすることとなった。

そして鈴鹿クラブマンレースのクオリティを高めるための新たな取り組みが、レーシングアドバイザー制度の導入。今回はレーシングドライバーの田中哲也氏に参加していただいた。競技役員とドライバーの橋渡しの役割を担うのがレーシングアドバイザーの役割である。「ドライバーの本来の意図はどういったことか」を、中立な立場で判断。レース後、ドライバーにアドバイスを送ることもあり、レースの質の向上、ドライバーのレベルアップに寄与する狙いがあるという。

◆レーシングアドバイザーを務めた田中哲也氏への一問一答◆

Q:レーシングアドバイザーの役割で動かれて、今日はいかがでしたか。

「レース中の接触は、特にお互いに言い分があるもの。ドライバー目線で、そこをくみ取ってあげたいですね」

Q:今日の前半は荒れたレースもあり、大変だったのでは。

「レース後、ドライバーに自分の経験を踏まえてアドバイスを送りました。競技役員が適正にジャッジするためのお手伝いも仕事ですが、ドライバーに寄り添うことも大事だと、今日、現場に来て感じているところです」

Q:田中さんだからこそ、できるアドバイスもあると思います。

「ペナルティが科されたら、それはほぼ覆せません。それに、接触したらタイムは落ちるものです。なので、ドライバーには回避する方法、判断の仕方を説明してあげたいです。私のアドバイスで、タイムが上がってくれたらうれしいですね」



レーシングアドバイザーを務めた田中哲也さん

■Vitzコンソレーションレース

レースはポールポジションの井上勝仁が順当にホールショットをゲット。オープニングラップが終わり、井上がリードする展開となる。井上を川瀬武男、続いて東原将騎が追う。だが、レース序盤で井上に反則スタートのペナルティが科される。井上と川瀬がテールノーズを繰り広げ、井上がトップチェッカーを受けるも、ペナルティにより優勝は川瀬となった。



ポールポジションを獲得した#89井上勝仁。決勝に進めなかった全6台のマシンがグリッドに並んだ



仮表彰／1位川瀬武男、2位東原将騎、3位中西由美子

■FFチャレンジ Class

2戦連続でポールポジションからスタートした武田泰一は、すぐさま好スタートを決めてみせる。武田を2番グリッドスタートの林陽介、山本高太が追う。すると2周目のホームストレートで林が接触によりスピン。さらに星野宏元が130Rで激しいクラッシュを喫してしまい、3周目で赤旗中断となる。レースは武田を先頭にセーフティカーの先導で残り3周から再開される。武田と山本がトップを争ってテールtoノーズを繰り広げたが、武田が逃げ切りに成功。30kgというウエイトハンディを背負いながらも、見事に大荒れとなったレースを制してみせた。



ポールポジションからスタートした#21武田泰一。一度もトップを譲ることなくポールtoウィンを決めた



優勝した武田は2位の尾高伊織に5秒以上の差をつける完勝。赤旗中断で波乱含みのレースで勝利した

■スーパーFJ Class 第3戦

ポールポジションは2戦連続となる澤龍之介が獲得。スタート直後、2番グリッドスタートの岩佐歩夢が澤にアウト側から迫るが、澤がホールショット。レースは澤、岩佐、菊池有孝、村松日向子とオーダー通りでオープニングラップを終える。序盤、岩佐はトラブルかマシンを止めて無念のリタイア。澤はトップ、そして菊池、村松のトップ3はそれぞれに間隔があり、バトルは見られない。レースが折り返しを迎える頃、入山翔、八巻渉らの4番手争いが激しくなる。レースはそのまま澤がポールtoウィンで今シーズン2勝目を飾った。



とにかく速さが際立っていたポールシッターの#56澤龍之介。一人だけ異次元の走りを披露してみせた



優勝した澤、2位の菊池有孝、3位の村松日向子。午後からの第4戦には気持ちを切り替えて挑んだ

■TOYOTA GAZOO Racing Netz Cup Vitz Race 2019 関西シリーズ第2戦

47台がグリッドに並び、レースはスタート。ポールシッターの峯幸弘が好スタートを決めると、森口優樹、堀内秀也が続くグリッド順の展開でオープニングラップを終えた。4周目になる頃、トップの峯と森口の差は約1秒ある。そして、レースを盛り上げたのは7番グリッドスタートの黒田保男だ。黒田は徐々に順位を上げ、6周目には3台の先頭集団に加わる。猛チャージを見せた黒田だが、トップ2のバトルには入れず。森口のプレッシャーをはね返したトップの峯が、見事なポールtoウィンを決めてみせた。



決勝レースのグリッドには、47台がずらりと勢ぞろい。レース前、ピットアウトするシーンも華やかだった



応援に駆け付けた皆さんも大いに楽しんでいたVitzレース。表彰台のシャンパンファイトでは、ひとざわ歓声が上がった

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

2戦連続でポールポジションからスタートを獲得したのは寺西玲央だったが、2番グリッドスタートの岡田拓二がホールショットを奪う。一方、寺西は4番手にまで順位を落としてしまう。すると2番手を走るヒロボンが岡田をパス。トップでオープニングラップを終える。この日の時点でランキングリーダーの伊藤裕士は4番手を走行し、前の出方をうかがう。後半になり岡田、寺西、ヒロボン、伊藤の4台にトップ争いは絞られる。ファイナルラップ、ヒロボンが勝負に出て寺西をパスするが、トップの岡田までは捉えられない。レースは岡田がトップチェッカーを受けた。



ポールポジションを獲得した#77寺西玲央。だが、残念ながら優勝は岡田拓二に譲ることに



レース直後。マシンを止め、勝利を喜ぶ岡田拓二。序盤でトップに立つと、そのまま逃げ切った

■フォーミュラEnjoy Class

FE2はポールポジションスタートの大崎達也がスタート直後から、見事なロケットスタート。一気に後続を引き離し、危なげなくそのまま逃げ切りに成功した。FE1は安橋徹、宝閣善樹、RYUU MAOによるクラス優勝を懸けた白熱のバトルが見られた。

【FE1】

13番グリッドの小俣弘之がクラス1位のポジションからスタート。だが、安橋徹がトップに立ち、小俣、宝閣善樹が追う展開になる。4周目にかかる頃、RYUU MAOが安橋の前に出る。その後も宝閣、安橋、RYUUは激しいトップ争いを繰り広げる。稀にみる大接戦を制してRYUUがクラス優勝。そして宝閣、安橋の順でチェッカーを受けていった。

【FE2】

ポールポジションスタートの大崎達也は素晴らしいスタート。一気に後続を引き離しにかかる。大崎を追い今田信宏、永井秀和が続くと、辰巳秀一もこのバトルに加わってくる。大崎が完全に独走態勢になると、辰巳と永井の3番手争いが白熱し始める。レースは大崎が完勝と呼べる内容でフィニッシュ。2位は今田、永井の猛追を抑えた辰巳が3位となった。



総合1位、FE2クラス1位を獲得した#73大崎達也。危なげないレース運びで、ポールtoウィンとなった

■フォーミュラEnjoy Class



■フォーミュラEnjoy (FE1) 仮表彰式 FE1クラス優勝のRYUU MAO、2位の宝間善樹、3位の安橋徹。FE1も順位が目まぐるしく変わった



■フォーミュラEnjoy (FE2) 仮表彰式 FE2クラス優勝の大崎達也。今田信宏、辰巳秀一も表彰台をゲット。笑顔で写真に収まった

■スーパーFJ Class 第4戦

第3戦の正式結果を受け、1～6番グリッドはリバースグリッドを採用。第3戦で6位だった荒川麟がポールポジションからスタートした。開始直後、入山翔がホールショットを奪うも、中村賢明が入山をパスしてトップに踊り出る。だが、第3戦の勝者、澤龍之介は着実に順位を上げ、2周目が終わる頃にはトップに浮上する。独走態勢になる澤を追いかけてしようと菊池宥孝も2番手につけるがその差は大きい。レースはそのまま澤が完勝。第3戦でマシントラブルに泣き、第4戦は27番グリッドスタートだった岩佐歩夢は20台以上をパス。6位でフィニッシュして、レースを盛り上げてみせた。



第3戦は6位チェッカーだった#77荒川麟。リバースグリッドにより、第4戦ではポールポジションからスタート



第3戦、そして第4戦で表彰台の一番高いところに立った澤。2レースともに速さを見せつける形となった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

スーパーFJ Class第3戦で自身初の鈴鹿表彰台獲得

村松 日向子 選手(Rn-sports 制動屋 KK-S2)



Q: つい先ほど終えた第4戦は悔しい結果でした。

「自分のペースで走ることができなかった。スタートに失敗したことも響きました。4番グリッドスタートで上を目指せと思っていたので悔しい」

Q: それでも午前中の第3戦は、鈴鹿では自身初の表彰台に立ちました。

「うれしさもありますが、レース展開に助けられました。走りながら足りない部分を感じるレースでもありました」

Q: 2レースを走り終えた今日1日を振り返ってくださいますか。

「成長も感じつつ、実力不足な面も痛感した。そんな1日でしたね」